

まちづくり計画 **見直し**

ガイドライン



宝塚市・宝塚市協働のまちづくり促進委員会

目 次

はじめに	1
(1) 「地域ごとのまちづくり計画」とは？	1
(2) なぜ、まちづくりに計画が必要なの？	1
(3) なぜ今見直しを？	2
(4) なぜガイドラインか？	2
(5) 公開性、透明性、民主性に気を付けましょう	2
1. 誰がどのように計画を見直すの？	3
2. 計画期間	3
3. どうやって計画を見直すの？	4
(1) 計画見直しの手順	4
(2) 作業の進め方	5
4. まちづくり計画をまとめましょう	7
(1) 「まちづくり計画」のまとめ方のポイント	7
(2) 計画書のまとめ方	11
5. まちづくり計画を知らせましょう	12
定期的に	
6. 取り組み状況を確認しましょう	12
資料：まちづくり計画見直しに活用できる手法	14

はじめに



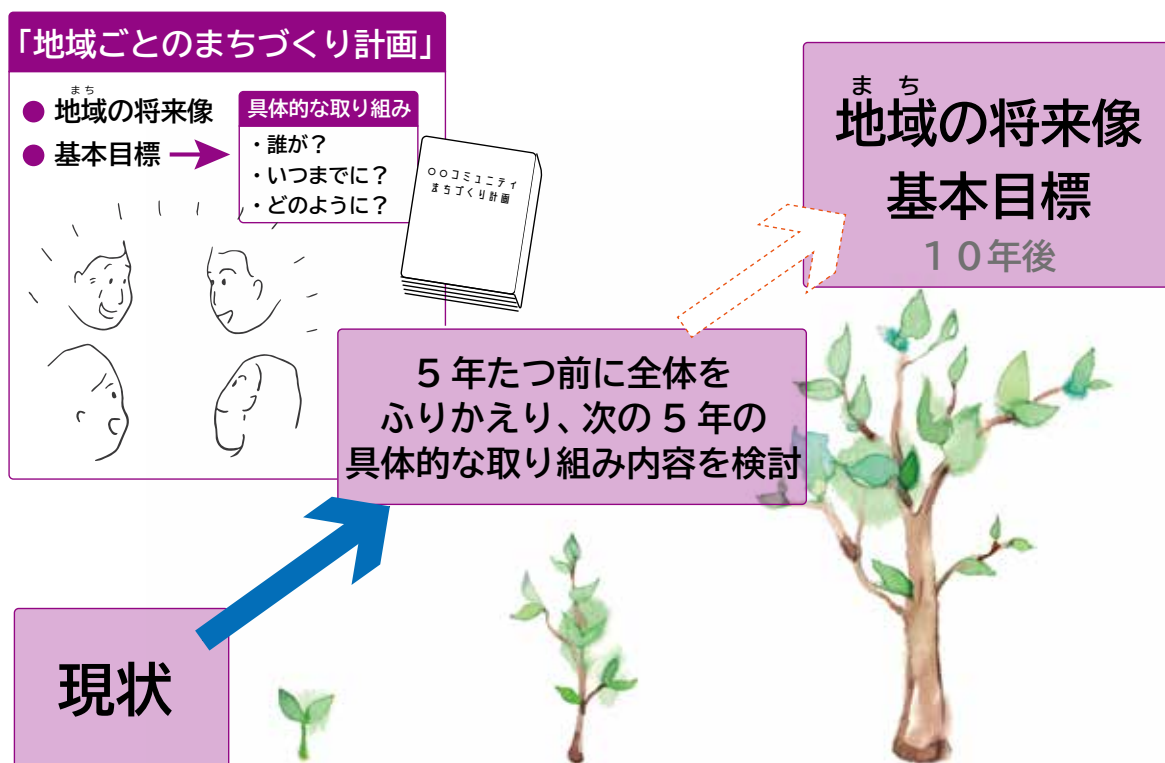
(1)「地域ごとのまちづくり計画」とは？

- 「地域ごとのまちづくり計画」とは、地域（おおむね小学校区）の将来像に向けて、「誰が」「いつまでに」「どこで」「どのような方法で」「何をするか」を示したものです。地域の多くの人に参加して、「将来この地域がこうなっていたら良いなあ」と思う「地域の将来像」を描き、共有し、目標を定め、具体的な取り組みをとりまとめます。

(2) なぜ、まちづくりに計画が必要なの？

必要な理由は、大きく分けて2つあります。

- ひとつは、自分たちの頭の中にある考えを整理して見える形にするためです。「誰が」「いつまでに」「どのような方法で」と具体的にとりまとめ、実行しようとするときには「地域にどのような課題があるのか」や「地域資源の活用はできないのか」などをさまざまな観点から検討することができます。
- もう一つの理由は、まちづくり計画を用いて他の人や団体と「地域の将来像」を共有することで、一緒に活動し計画の実現に向けて協力する体制を作るためです。しかし、そのためには、何よりも策定段階から多くの地域の人たちと意見を交わしながら一緒に考えることが大切になります。



(3) なぜ今見直しを？

各まちづくり協議会が「第4次宝塚市総合計画」の前期期間中に作成した「地域ごとのまちづくり計画」は45%が達成されたことが確認されていますが、作成から15年たち、計画に沿って継続的に^{まち}地域で行われている活動が時代に合わなくなっている場合もあります。また、^{まち}地域の様子も15年前とはずいぶん変わってきています。

「第5次宝塚市総合計画後期基本計画」にも「まちづくり計画を推進しながら見直す」ことや「まちづくり協議会の議決機関を明確にする」ことが盛り込まれています。

このような背景から、今、「まちづくり計画」の見直しが必要です。

(4) なぜガイドラインか？

「まちづくり計画を見直す」にあたっては、市の計画と関連付け、まちづくり協議会が取り組みやすいものにする視点で、全てのまちづくり協議会がこれまで以上に共通した構成や作り方をする必要があります。そのため、改めて「まちづくり計画見直し」の共通の指針としてのガイドラインを作成しました。

このガイドラインは平成14年に作成された「まちづくり計画ガイドライン」の考え方を基本としています。まちづくり協議会は、これまでの「まちづくり計画」を基にした活動の内容などについて再検討が必要です。また、行政は「まちづくり計画」が確実に取り組まれるようにするために、総合計画との関連性、政策や事業に組み込む仕組みの再検討のほか、財政措置についても検討する必要があります。

(5) 公開性、透明性、民主性に気を付けましょう

まちづくり計画見直しに当たって、住民が作成にかかわる工夫をすること（公開性）、情報を積極的に公表すること（透明性）、論議を尽くし住民の総意として決定すること（民主性）に気を付けましょう。

1. 誰がどのように計画を見直すの？

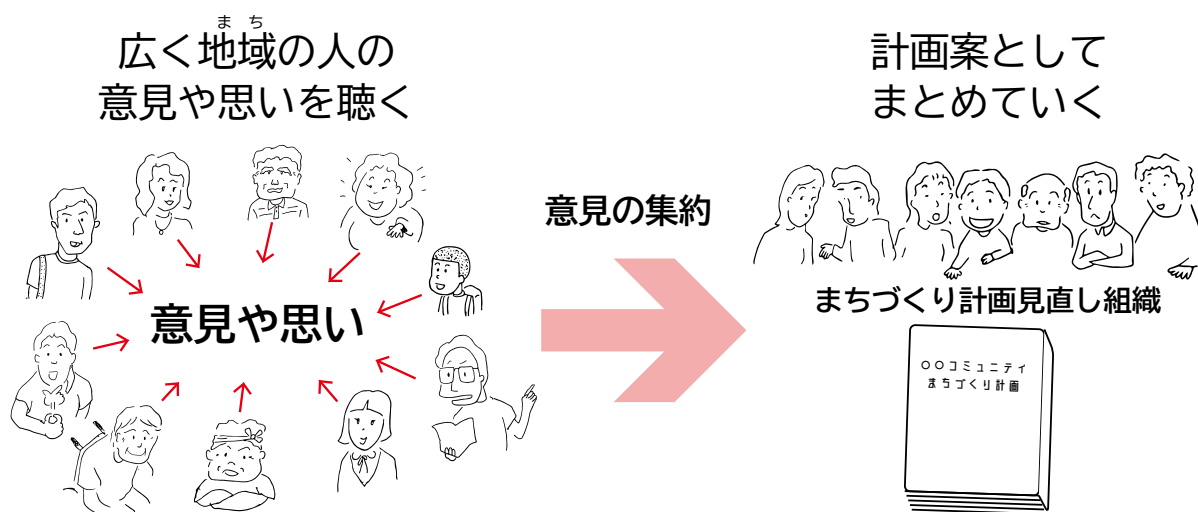
- 計画の見直し作業には、広く^{まち}地域の人の意見を聴く段階と、計画案としてまとめていく段階があります。

意見を聴く

^{まち}地域には、幅広い世代、いろいろな考え方を持った人、さまざまな分野に詳しい人や活動している人が暮らしています。まずは、こうした「^{まち}地域で暮らす人」の意見や思いを広く聴きましょう。特に、当事者の声を聴くことは大切です。例えば、子育てに関することは子育て中の親に、子どもを対象とした行事・イベントに関することは^{まち}地域の小学生や中学生等に聴いてもいいでしょう。

計画案をまとめる

計画案としてまとめていく作業は、まちづくり協議会が中心となってまちづくり計画見直し組織（部会等）を設置し、意見の集約や議論をしながらまとめていきましょう。これまでまちづくり協議会で活動している人だけでなく、この機会に^{まち}地域に関心を持った人や^{まち}地域で活動している団体等に声をかけ、さまざまな分野で活動した経験や意見や思いを持った人たちにも入っていただいて、計画をまとめていくといいでしょう。



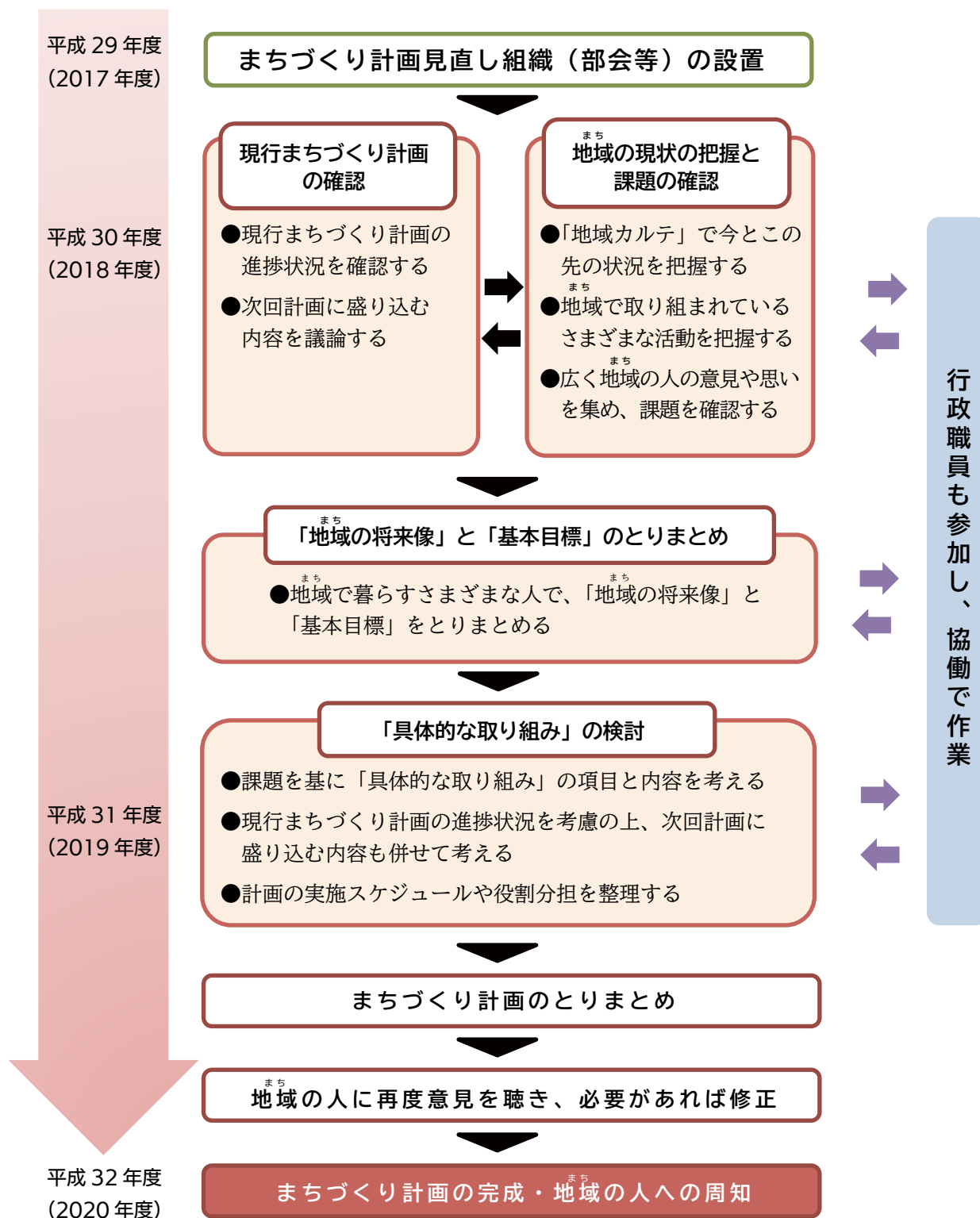
2. 計画期間

- まちづくり計画は平成 31（2019）年度までにとりまとめます。
- 各^{まち}地域でとりまとめた計画は、市では平成 33（2021）年度からの「第 6 次宝塚市総合計画」の一編として位置づけます。
- そのため、計画期間は平成 33（2021）年度から 10 年間として「^{まち}地域の将来像」と「基本目標」を設定し、おおむね 5 年間で実行する「具体的な取り組み」をまとめます。
- 市民主体で進められる取り組みは、すぐに実行していきましょう。

3. どうやって計画を見直すの？

(1) 計画見直しの手順

【取り組みの進め方】



(2) 作業の進め方

① 地域の現状や課題、ニーズを把握する方法

- 「地域カルテ」を利用し、地域の状況を把握する。
- 地域の活動などを把握する。
- 地域の現状や課題、住民ニーズを把握するには、さまざまな進め方がありますが、地域の実情に応じて、地域に合った進め方を検討してください。
- 意見の数も大事ですが、質も大事です。例えば、全戸配布のようなアンケートが実施できなくても、工夫していろいろな立場の人からたくさんの視点で意見を出してもらうことを心がけましょう。



「アンケート調査」「聴き取り調査」などは、地域で開催されているさまざまな場を活用して、いろいろな世代の人に、より興味をもってもらいながら、意見やアイデアを集めることができますよ。

住み慣れてよく知っているはずの地域でも、視点や興味・関心が異なると、新たな発見をすることがあります。必要に応じて、地域を歩いて、地域の魅力や課題をみんなで見直してみましょう。



P 14
15
資料参照

② 「地域の将来像」を思い描き、地域の「基本目標」や「具体的な取り組み」を検討する方法

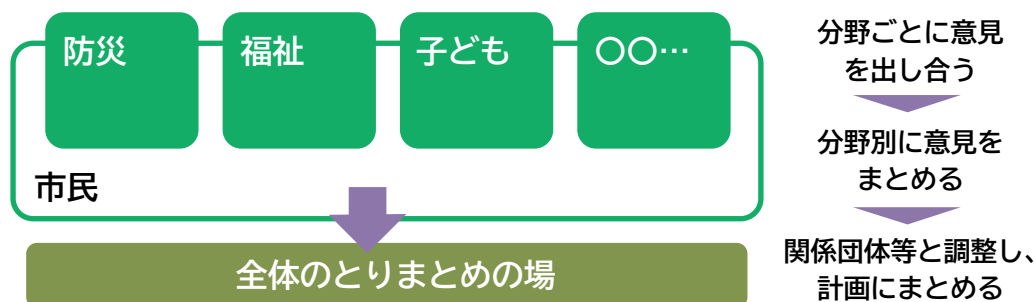
- 地域で暮らすさまざまな人で意見や思いを出し合う場・機会をつくり、地域の課題解決や地域を良くしていくためのアイデア、あるいは「このような暮らしがしたい」、「このような地域にしたい」などの意見や思いを集め、「地域の将来像」や「基本目標」を決めましょう。
- このとき、現行のまちづくり計画の進捗状況、「地域カルテ」や上記①で収集したさまざまな情報も共有してから話し合っていくことが大切です。

「お互いさま」があふれる
まちづくりの視点も大事だね。



③ 検討を進める体制例

- 分野ごとに分科会などを設置し、分野別に意見を集め、まとめる作業を行い、それを持ち寄って、全体で協議・調整、とりまとめを行うなど、検討のための場・体制を工夫しましょう。



自由に思いを語り合う「意見交換会」、地域の魅力や課題を出し合って、解決方策を練る「ワークショップ」など、場面にあわせて、いろいろな会議の仕方がありますよ！

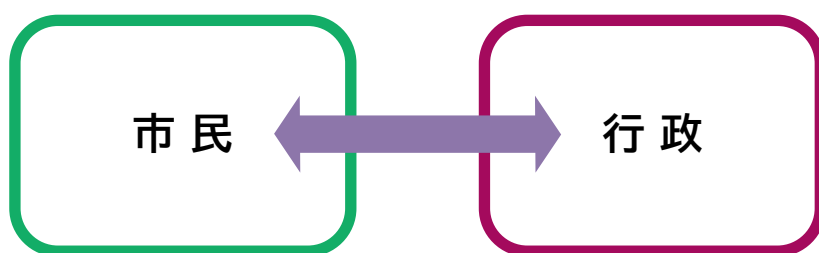
P 14
15
資料参照

④ 行政と協働でのとりまとめ

- 地域^{まち}でとりまとめられた計画は、道路や施設に関することなど市民だけではできないこともあります。また、行政の予算が必要な場合などは、市の担当部署と一緒に考えることが必要になります。
- 行政と協働することは、事前に行政と調整して、計画に盛り込みましょう。
- 「できそうにない」取り組みを「こうすればできる」取り組みにするために、市民と行政で協議しながらとりまとめましょう。市民でできる方法を考えたり、宝塚市以外の補助金・助成金^{*}の活用を検討することも大切です。

* 「補助金・助成金事業一覧」を参照
市ホームページ⇒ ID 番号 1026053

【行政と協働でとりまとめる手順】



- ① 意見をまとめる
- ② 行政と調整して精査する
- ③ 話し合い、計画にまとめる

5年間でできることをしっかり話し合い、よりよい計画にしていこう！

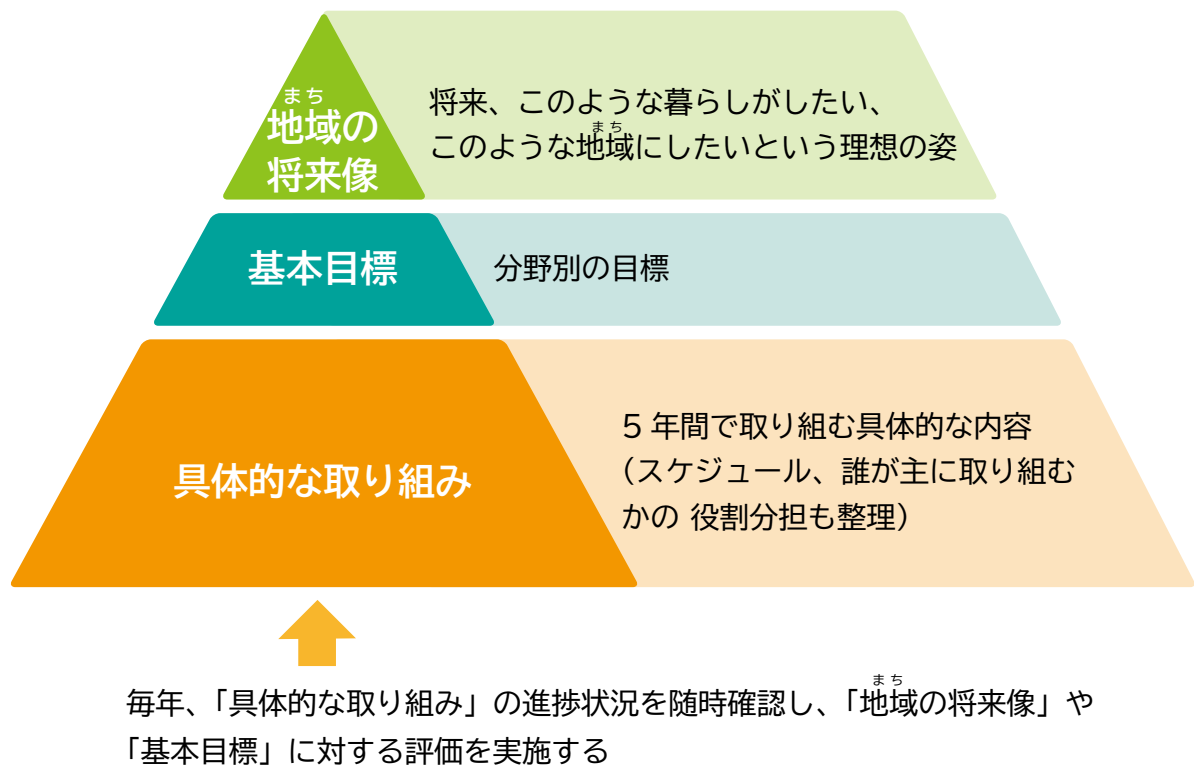


4. まちづくり計画をまとめましょう

(1) 「まちづくり計画」のまとめ方のポイント

- 広く集めた意見や思いを基に、まちづくり計画見直し組織（部会等）で、「^{まち}地域の将来像」（10年）や「基本目標」（10年）、「具体的な取り組み」（1～5年）の内容、スケジュール、役割分担をまとめます。
- いろいろな人から出された意見を整理して並べるということではなく、行政とも調整しながら、「^{まち}地域の将来像」に向けて、「誰が」、「いつまでに」、「どのような方法で」実施するかを議論しながら、実効性のある内容としてまとめていくことが大切です。

【「まちづくり計画」の構成】



①「地域の将来像」

- 「地域の将来像」は、将来このような地域にしたいという理想の姿（目標）です。
- 地域の現状・課題を確認するとともに、このような暮らしがしたいというイメージを語り合い、共有し「地域の将来像」を検討しましょう。

例)

地域の将来像	「みんなが安心して暮らせるまちづくり」
--------	---------------------

②「基本目標」

- 「基本目標」は、「地域の将来像」を受けて、福祉、防犯・防災、子ども、歴史、環境、にぎわい・交流など、地域の特性に応じた分野ごとに目標を決めます。
- 「地域の将来像」と「基本目標」は、まちづくりの根幹となる目標です。「地域の将来像」を検討するだけでなく、「具体的な取り組み」を見直すときは、その目標に合った取り組みとなっているか、確認しましょう。

例)

地域の将来像	「みんなが安心して暮らせるまちづくり」
基本目標	⇒防犯・防災「非常時に助け合えるまちづくり」 ⇒福祉「……………」 ⇒子ども「……………」

③「具体的な取り組み」

- 「基本目標」を受けて、「具体的な取り組み」の内容をまとめます。
- 取り組みの進捗管理ができて、PDCAサイクル*を意識できるように、より具体的な取り組みを記載しておきましょう。
- この取り組みの記載が目標評価の基準になりますので、言葉の使い方や表現をよく考えましょう。

例)

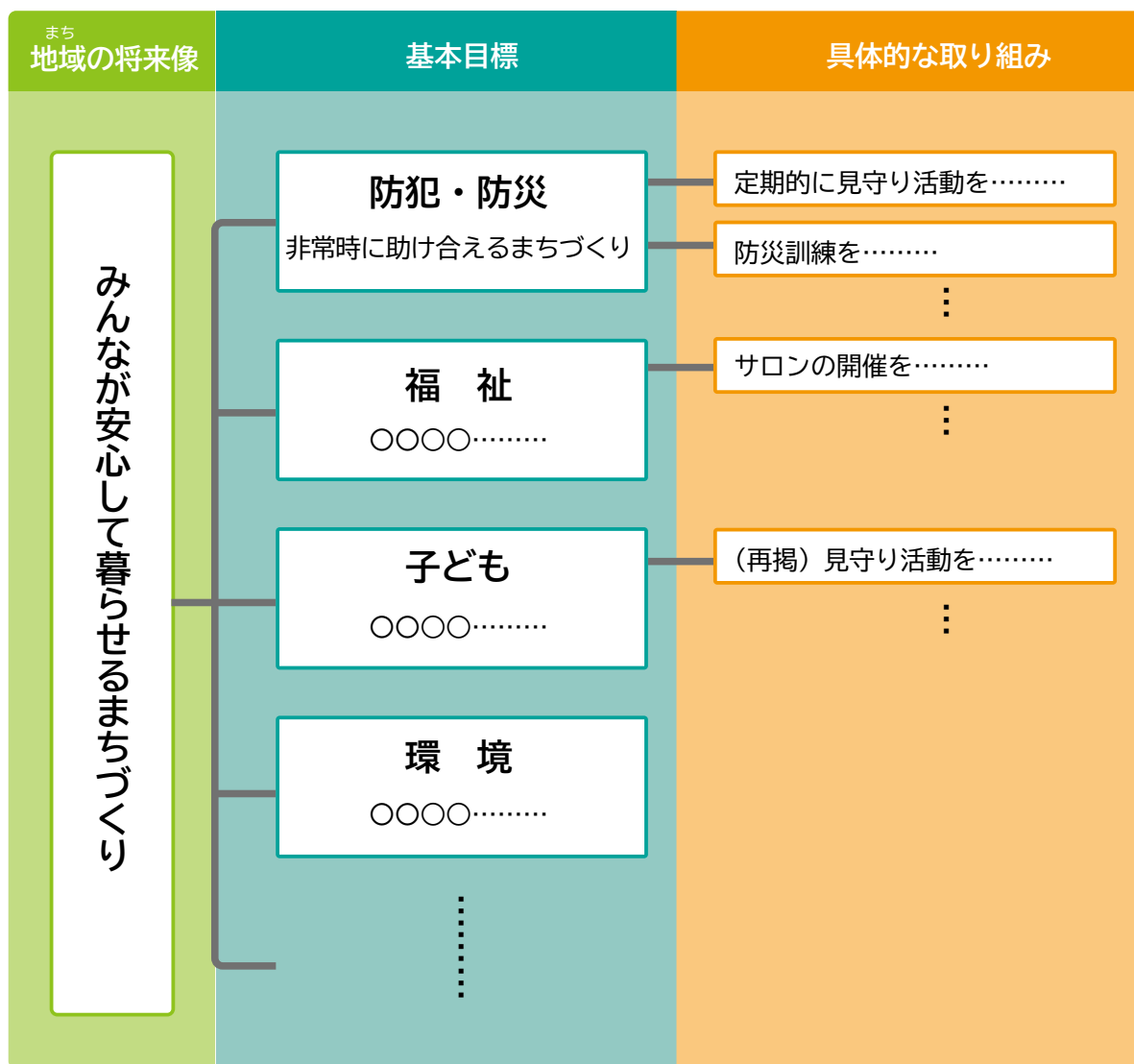
地域の将来像	「みんなが安心して暮らせるまちづくり」
基本目標	⇒防犯・防災「非常時に助け合えるまちづくり」 ⇒福祉「……………」 ⇒子ども「……………」
具体的な取り組み	1. 防犯・防災 (1) 非常時に助け合えるまちづくり ①定期的な見守り活動を… ②防災訓練を… 2. 福祉 (2) …… ①……

* PDCA サイクル：P13 参照

④ 体系的に整理

「^{まち}地域の将来像」、「基本目標」、「具体的な取り組み」は、体系的に整理してみるとよりわかりやすいものとなります。

【体系図整理例】

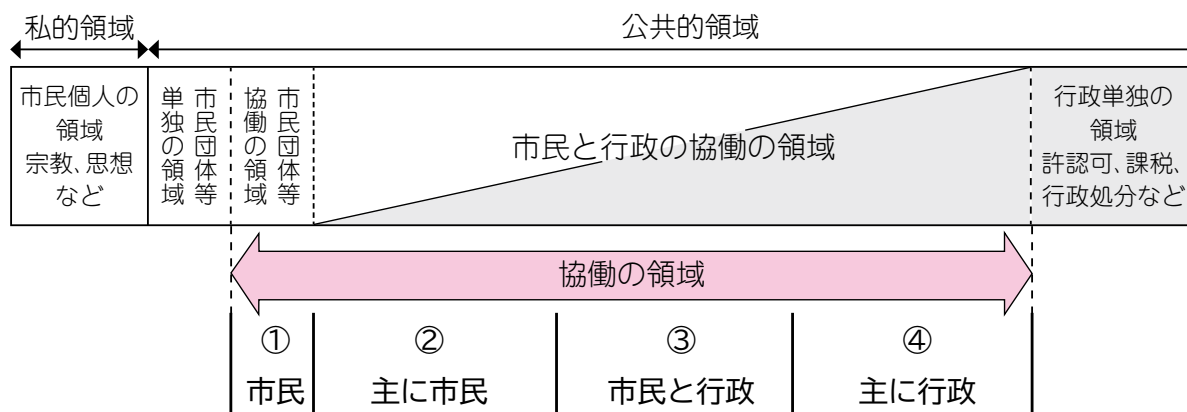


⑤ スケジュールと役割分担

- スケジュールは、1～5年後まで単年度ごとに「いつ」実行するかを検討しましょう。「継続」して取り組むものについては、1～5年に矢印を書いて表現しましょう。新たな取り組みを検討して事業実施に至るまで複数年にわたる場合は、年度ごとに達成する内容を「具体的な取り組み」の中で書いておきましょう。
- 役割分担は、ピンクで表示された「協働の領域」の取り組みについて検討し、市民団体等が協働する領域については「①市民が取り組むこと」に、市民と行政が協働する領域については「②主に市民が取り組むこと」「③市民と行政が取り組むこと」「④主に行政が取り組むこと」に整理しましょう。

※このガイドラインでは、市民を「個人としての市民、自治会、まちづくり協議会、地域団体、市民活動団体、中間支援団体、事業者」とし、行政を「市、県、国、公立小・中学校、公立高等学校、警察、消防」とします。

【協働の領域】



[出展：宝塚市協働の指針P.3]

【整理例】

基本目標	具体的な取り組み	継続・新規	スケジュール（西暦）					役割分担（協働の領域）				
			20年	第6次総計					①	②	③	④
				21年	22年	23年	24年	25年	市民	主に市民	市民と行政	主に行政
非常時に 助け合える まちづくり	定期的な見守り活動を…	○						○				
	防災訓練を…	○							○			
	……	○							○			
	……	○									○	
	……	○									○	
……	サロンの開催を…	○						○				
……	（再掲）定期的な見守り活動を…	○						○				

(2) 計画書のまとめ方

- 住民にも行政にもわかりやすくするために、統一したフォーマットでつくりましょう。
- 内容もわかりやすく読みやすいように、簡潔にまとめましょう。
- 作業した地図や写真、絵などを付けると読みやすくなります。
- 取り組みの進捗管理がしやすいように、取り組み内容だけ一覧表にして最後のページに付けておいたり、「地域の将来像」を描いたマップなどにまとめたりすると、策定後も活用しやすくなります。

【統一フォーマット】

〇〇地区まちづくり協議会

【はじめに】
.....

【現状と課題】
.....

【地域の将来像】
.....

【基本目標】
.....

【具体的な取り組み】

基本 目標	具体的な取り組み	継 続 規 則	スケジュール（西暦）		役割分担（協働の領域） ① : ② : ③ : ④ 市民 : 主に : 市民と : 主に : 市民 : 行政 : 行政
			20 年	第6次総計	
				21 : 22 : 23 : 24 : 25 年 : 年 : 年 : 年 : 年	
1. 防犯・防災 (1) 非常時に助け合えるまちづくり					
1	定期的な見守り活動を...	○	→		○ :
2	防災訓練を...	○	→		: : ○ : : : : : : : : : : : : : :

エクセルやワードの
統一フォーマットを
配布します。



2. 福祉
(1) ...

【あしがき】
.....

【資料】
1. 作成メンバー、2. 会議の記録、3. 盛り込み切れなかった意見の一覧、など

5. まちづくり計画を知らせましょう

- まとめた「まちづくり計画」は、^{まち}地域のみんなの計画です。より多くの人にこの計画の実行に参加してもらうために、広報誌や回覧、掲示板、ホームページやブログ等で知らせましょう。
- 「アンケート調査」や「聴き取り調査」に協力いただいた方に反映の結果を伝えましょう。
- 見直しをした時も、その都度、その内容を^{まち}地域のみんなに知らせましょう。

ポータルサイト
「みんなのまちづくり協議会」
を活用してね！



まちづくり協議会のポータルサイト
(<https://takarazuka-community.jp/>)
へは左の二次元バーコードから入れます。

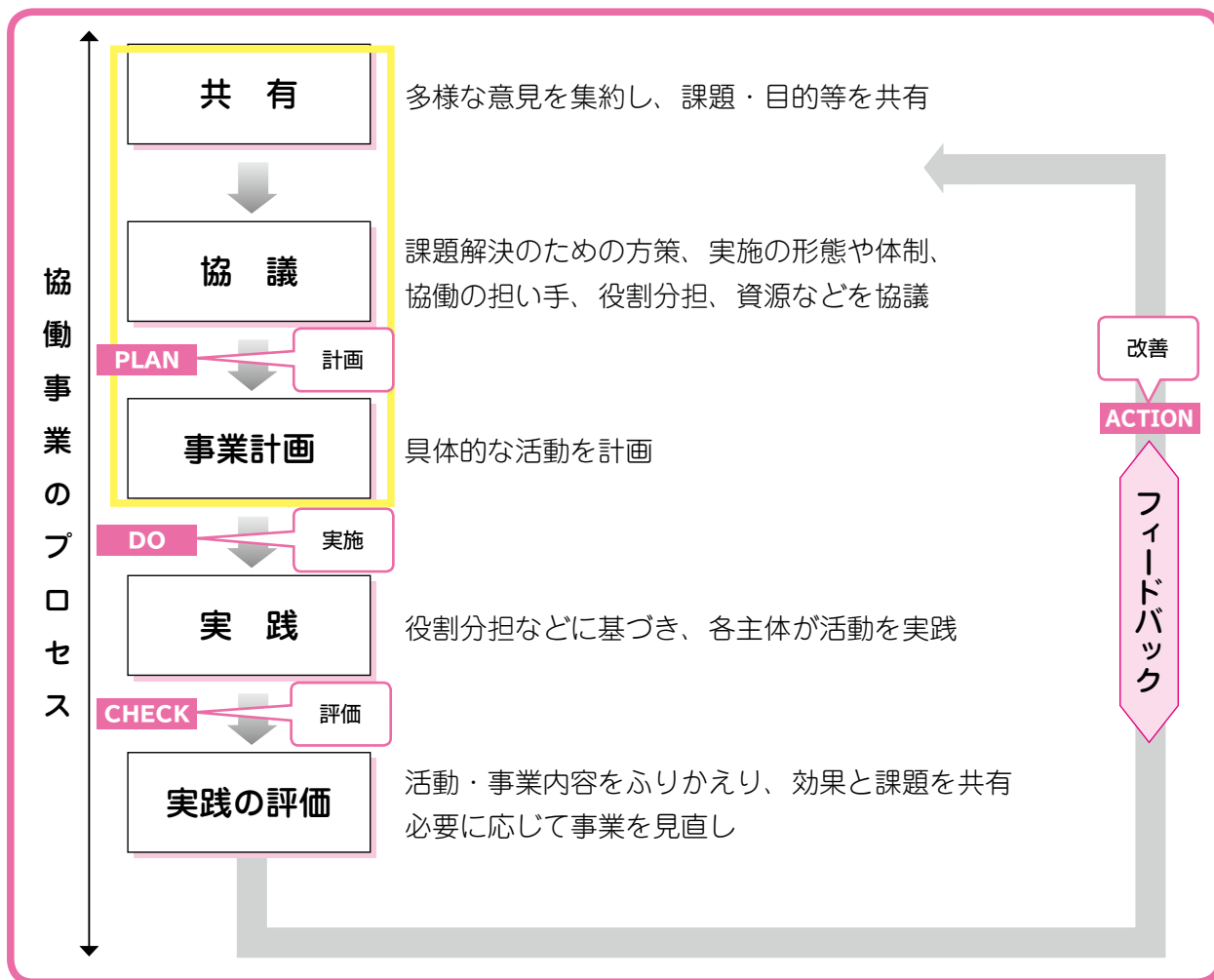


定期的に

6. 取り組み状況を確認しましょう

- 「^{まち}地域の将来像」、「基本目標」に向かって取り組みが進められているかを確認するために、PDCA サイクルを活用した計画の進捗管理は大切です。
- 毎年一回は取り組み状況について^{まち}地域で話し合って確認し、必要に応じて計画を修正するなど見直しをしましょう。
- 5年たつ前に全体をふりかえり、次の5年の「具体的な取り組み」の内容を検討しましょう。その場合は、「具体的な取り組み」を実行したかどうかの評価だけでなく、取り組みによって「^{まち}地域の将来像」、「基本目標」に向けた効果・成果が得られたかについて検証し、今後も継続して取り組むか、見直すか、あるいは新たな課題はあるかなどを検討しましょう。

【協働事業のプロセスとPDCAサイクル】



※ 宝塚市協働の指針を基に作成

PDCAサイクル

PDCA とは、 **PLAN**（計画）、 **DO**（実施）、 **CHECK**（評価）、 **ACTION**（改善）の頭文字から名付けられたもの。「計画」をつくり、事業や活動を「実施」した後、期待している成果があったかを「評価」し、その結果をもとに、次の計画を「改善」することです。「評価」「改善」も意識して取り組み、目標の達成、事業や活動の向上につなげましょう。



資料：まちづくり計画見直しに活用できる手法

■幅広い世代の人から意見やアイデアを集める手法

アンケート調査（投票）



- どこで** 夏祭りなどの住民が多く集まる行事
- どのように** 模造紙大の大きなアンケート票を貼り出し、シール投票や書き込みをしてもらう。

アンケート調査（旗揚げ）



- どこで** サロンなど人が集まる場所
- どのように** 質問と選択肢を読み上げ、一斉に選択肢の番号の旗をあげてもらう。

聴き取り調査

- どこで** サロンやサークル活動の場

- どのように** あらかじめ、聴き取り内容を決めておき、その場にいる人に答えてもらう。

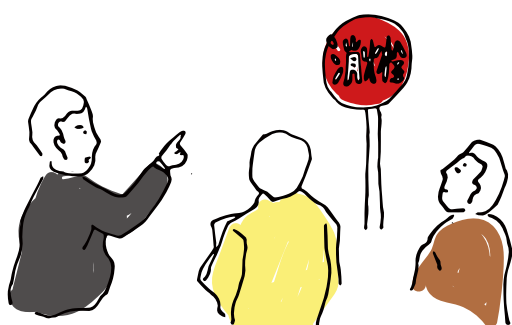


こんな方法も：提案シート

“今後 10 年のわがまちへ” 提案シート		10 年後の私の暮らし わがまちのイメージ	
	5 年後	10 年後	
こんなまちであつたらいいなあ キーワード			暮らしのお気に入りのシーン ↓ そのために必要なもの
これが必要になればいいのになあ キーワード			

まち
地域の魅力や課題、10 年後の暮らしなど地域に関する情報を集めるために、キーワードや短い文で書き込めるシートを準備し、人の集まる場を活用して記入をお願いする。

■まち地域歩きのねらいと実施のポイント

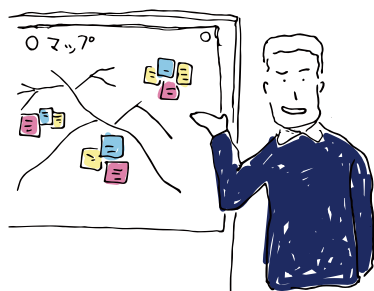


ねらい

- ・まち地域の姿や特性を確認し、共有する。
- ・事前にまち地域の魅力や課題を出し合い、その現場を確認する。
- ・まち地域の危険箇所や公園・施設の使いやすさなどテーマを決めて確認する。

実施のポイント

- ・幅広い年代、いろいろな活動をしている人の参加により、さまざまな気づきが得られる。
- ・1 時間程度で終わられるよう、エリア分けをし、ルートやポイントを決めておく。
- ・チェックシートをつくり、確認結果を記入する。
- ・参加者が成果をまとめ、共有する時間を設ける。



■検討を進める場をつくる手法

意見交換会



ねらい いろいろな人が集まり、暮らしや
まち
地域について気になっていること、
まち
地域のいいところなどを気軽に語
り合う。

どのように テーマを特定せず、日頃から思っ
ていることを参加者に順番に話して
もらう。参加者が多い場合は、グル
ープに分かれて話をしてもらうこと
もある。記録係を決めておく。

ワークショップ



ねらい さまざまな意見や情報を出し合い、
参加者がみんなで議論をしながら、
計画などにまとめていく。

どのように 各回の成果目標を決める。
検討内容を確認・共有しやすいよう、
ホワイトボードや付箋などを活用し
て記録する。思いやアイデアを分類
したり、関係性を探りながら、内容
を深めていく。各回の成果目標に従
って、検討のまとめを行い、次の検
討につなげる。

ここに注意！

- みんなが思いを語りやすいよう、運営ルールを共有することが大切です。
- 特に、「肩書き」をはずして参加する場であること、時間内にみんなが話し、いろいろな思いを聴くことを確認しておきましょう。
- 場を和やかにするために、机の配置には工夫をしましょう。
- 最初に自己紹介や簡単なゲームをすると緊張がほぐれます。



※このガイドラインは、協働の仕組みづくり検討部会作業班（平成30年2月7日から合計11回開催）を中心に宝塚市協働のまちづくり促進委員会において案をまとめ、各まちづくり協議会のご意見をふまえて作成しました。

宝塚市協働のまちづくり促進委員会（第3期）委員名簿 （任期：平成29年9月20日～平成31年9月19日）

		氏名	所属など
知識経験者又は市長が適当と認めた者	1	久 隆浩 ○	近畿大学総合社会学部教授
	2	足立 典子 ○	認定NPO法人放課後遊ぼう会
	3	飯室 裕文 ○ □	まちづくり活動経験者
	4	成瀬 文夫 ○ □	宝塚市民生委員・児童委員連合会
	5	加藤 富三 ○ □	まちづくり活動経験者
	6	平石美佐子 ○ □	高司小学校区まちづくり協議会
	7	石谷 清明 ○ □	宝塚市自治会連合会
	8	古村 福子 ○	宝塚文化財ガイドソサエティ
	9	木村 洋希（～H30.2.26）○ 神谷 彰一（H30.2.27～）○	宝塚青年会議所
	10	田中 香織	宝塚商工会議所
	11	中山 光子 ○ □	認定NPO法人宝塚NPOセンター
	12	野田久美子 ○ □	宝塚市自治会ネットワーク会議
	13	檜垣 彰子 ○ □	PTA活動経験者
	14	溝口由加子 ○ □	宝塚市社会福祉協議会
市民公募	15	喜多 毅 ○	市民公募委員
	16	光村 正生 ○ □	市民公募委員
	17	藤本眞砂子 ○ □	市民公募委員
市職員	18	立花 誠 ○	市職員（社会教育部長）
	19	土屋 智子（～H30.3.31）○ 福永 孝雄（H30.4.1～）○	市職員（産業文化部長）

所属などは平成30年6月現在

○は協働の仕組みづくり検討部会員を、□はまちづくり計画見直しガイドライン作成作業班員を示す。



発行日 平成 30 年（2018 年）6 月

発 行 宝塚市・宝塚市協働のまちづくり促進委員会

事務局 宝塚市 市民交流部 きずなづくり室 市民協働推進課

連絡先 電話 0797-77-2051

E-mail m-takarazuka0004@city.takarazuka.lg.jp